

徳川家康公 と駿府

Tokugawa Ieyasu in Sumpu

常葉学園大学教授

川崎文昭氏

Fumiaki Kawasaki



経歴

1941年、静岡市に生まれる。静岡高校、東京教育大学を卒業。東京教育大学大学院博士課程を修了。1980年、常葉学園大学開学とともに、同校講師。助教授をへて教授。主な著書に『東海道助馬制の研究』『近世海難と浦証文の研究』（いずれも篠原印刷出版部）。

駿府、清水湊、富士川を舟で結んだ家康

清水湾に注ぐ巴川の河口に形成された湊が近世清水湊であった。巴川右岸に清水町、その北に江尻町・入江町が位置し、穴山梅雪が居城した江尻城跡が田畑に開発されていた。戦国時代には江尻町は江尻三日市場、入江町は入江七日市場と称され、定期市が立ち、両市場の辺が江尻湊とも清水湊ともいわれた。戦国時代、清水湊は駿河湾の清水・沼津・内浦・吉原・小河・石津、遠州の湊・掛塚などの今川氏分国中の湊で自由に商売することが認められ、帆役・湊役などの諸役が免除されていた。近世清水湊は、これより南に下がった地に新しく形成された。

清水湊には、池田輝政や浅野紀伊守・生美林地帯である信州伊那を直轄支配した。このころは城郭建築や城下町形成などにより木材の需要が大きかった。家康はこれらの木材を伊那地方に求めたのである。慶長一二年（一六〇七）家康は角倉了以に朱印状を与え、信州伊那より掛塚への天龍川舟運路を開削させた。これにより掛塚湊は木材集散の根拠地になった。

慶長一三年（一六〇八）富士川舟運路が角倉了以によつて開削された。これによつて甲府と駿州岩淵の間が河川通運によつて通じた。甲州・信州の年貢米や諸物資は鰍沢・青柳・黒沢の三河岸に集められて富士川を川下りされ、駿州岩淵に送られた。岩淵から陸路で蒲原浜まで送られ、蒲原浜で小廻船に積み、清水湊まで回送された。清水湊では、これを大廻船に積み替えて江戸

駒讚岐守らの蔵屋敷があった。それは駿府城下に多数の武士や商工業者が衆住し、大消費地になりつつあったからである。彼らは領国の年貢米を駿府に送り、換金しようとして清水湊に回送し、保管していたのであった。

湊には「御材木置場」が設けられた。駿府城本丸の造営用材が天龍川上流、あるいは熊野から、伊豆の天城から伐りだされ保管されていた。

一方、天竜川河口に掛塚湊が形成された。掛塚湊から大坂、駿府などの各地に材木・樽木などが積み出された。材木や樽木などは信濃国の幕府御料林から伐りだされた。家康は木曾とともに全国でも有数の

へ回送した。逆に瀬戸内地方から送られてきた塩を主にし、酒・油なども富士川を通じて甲州・信州に送った。

家康は駿府城修築がなつたときに、駿府郊外の上土を經由して巴川水路を掘削した。これにより、駿府と清水湊は水路で結ばれ、富士川舟運路を通じて甲信州と結びついた。

こうした清水湊には四二軒の廻船問屋が営業した。それは、大坂の陣に際して水軍基地であったために廻船や漁船を徴発され、兵員や兵糧の回送に従事させられ、膨大な湊御用と船役を勤めた。その功績が認められ、四二軒の廻船問屋が幕府によつて独占権を認められたのであった。廻船問屋は強い仲間意識のもとに四二軒の数を明治まで維持した。



歌川広重「東海道五拾三次之内 江尻 三保遠望」



歌川広重「東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺」

私の一文字

川崎文昭さんが選ぶ
徳川家康公を表現する一文字。

家康は、海上交通、河川交通を縦横に結びつけて全国的流通網をつくり出した。清水と富士川舟運を通じて、掛塚と天竜川舟運を結んで、駿府と江戸と甲信州を、また大坂を結んだ。

交



角倉了以翁の紀功碑と渡船「上り場」常夜燈（富士市岩淵）